修士論文（要旨）
2013 年 1 月

成人知的障害者を子どもに持つ親の障害の捉え方
―社会との関わりの中で―

指導　中村　延江　教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
211J4008
齋藤　陽介

目次

はじめに・・1
第１章　先行研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
0．障害者を子どもに持つ親の研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1．障害者を子どもに持つ親の養育態度の研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
A．研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
B．親を直接支援するための指針として捉えた場合の研究の評価・・・・・・・・・・3
2．障害者を子どもに持つ親のストレス研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
A．研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
B．親を直接支援するための指針として捉えた場合の研究の評価・・・・・・・・・・5
3．障害者を子どもに持つ親の子どもの障害受容に関する研究・・・・・・・・・・・・6
A．障害受容の研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
B．障害受容の定義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
C．障害受容の段階説・慢性的悲嘆説・螺旋型モデル ・・・・・・・・・・・・・・・・7
D．障害受容の質的研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
E．親を直接支援するための指針として捉えた場合の研究の評価 ・・・・・・・・・10
4．これまでのまとめと問題提起 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第２章　本研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
1．意義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
2．目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
3．方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
研究対象者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
調査期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
調査場所及び面接形態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
質問項目・インタビューガイド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
倫理的配慮 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
手続き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
分析方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
分析テーマ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
分析焦点者とその選定基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
分析手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
4．結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
概念 ・・18
カテゴリー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
結果図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
ストーリーライン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
コアカテゴリーの説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
5．考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
社会との関係性からいえること（親が見た「社会」について） ・・・・・・・・・・32
障害者を子どもに持つ親の心理プロセスから ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

障害者のきょうだい ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
障害種による引け目の影響力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
成人を迎えていない対象者について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
障害告知が概念に入らなかった理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
本研究のまとめと課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
6. 引用文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
7. 謝辞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
8. 付録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

目的

本研究の目的は、成人知的障害者を子どもに持つ親の障害の捉え方のプロセスを調べることである。なお、障害の捉え方は、成人障害者を子どもに持つ親の内面的な変化だけから見ていくのではなく、社会との関わりの中でどのようなプロセスを経て現在に至るのかを調べる。その理由としては、先行研究より障害者を子どもに持つ親と社会との関係を調べる意義が唱えられているが、実証的研究は存在しないためである。

以上のことを調べるため、プロセスを見ていくことに特化している修正版グランデッド・セオリー・アプローチ（以下 M-GTA）を分析方法として用いる。M-GTA を分析方法として用いる理由としては、他の方法論での研究よりも、障害者を子どもに持つ親に対して直接支援する指針を見出すことができると考えられたためである。

方法

対象は、成人知的障害者を子どもに持つ親（性別は問わない）16 名とした。人数は質的研究の先行研究（例えば樋口，2006、得津，2009）に基づき設定された。成人知的障害者が利用しているサービスは、対象者によって異なり（例えば、施設入所、グループホーム、通所施設など）、障害の種類（ダウン症や自閉症等）も問わなかった。成人を過ぎた知的障害者を持つ親という点のみを条件とした。なお、対象となった親は、知的障害や精神障害等の診断を受けていない人であった。

調査は面接によって行われた。面接は研究者が予め用意した質問項目に答えてもらう半構造化面接を用いた。面接は対象者につき一回行なわれ、時間は約 1 時間から 1 時間半であった。面接調査は研究者が全て行った。

研究者が予め用意した質問項目、インタビューガイドは、以下の通りである。質問項目は、障害に対する捉え方を明らかにするため、社会、現在の生活、繋がりに関するものとした。プロセスを重視するため、以下の質問に対して過去はどうだったのかも聞いた。

① 成人を過ぎ成長した子どもは社会においてどんな位置づけだと思われますか？
② また、社会からどう思われていると思いますか？
③ 子どもが今の生活を評価するとしたらどういう評価をすると思いますか？
④ あなたは今の生活を評価するとどういう評価をしますか？
⑤ 福祉サービスを利用している以外で子どもに関わる集団に属していますか？

結果・考察

M-GTA による分析の結果、32 の概念が生成された。生成された概念を、類似性の観点からいくつかのカテゴリーに分類していった。カテゴリーは、【障害者を子どもに持つ仲間】、【福祉社会】、【家族社会】、【出来事】、【一般社会】、【親子社会】、【不安要素】、【心理変化】、【親＋α】、【障害を持つ子どもの力】という 10 個が生成された。また、各カテゴリーは、いくつかの軸で考えることができたので、その軸をコアカテゴリーとした。コアカテゴリーは、＜社会＞、＜子どもの状態＞、＜心理プロセス＞、＜障害者を子どもに持つ仲間の力＞、＜親＋α＞、＜出来事＞という 6 つから構成された。

本研究の結果は、成人知的障害者を子どもに持つ親と一般社会との間に心理的距離と物理的距離のどちらも離れているということを浮き彫りにした。そして、福祉社会について

も、今後期待される働きは多くあるものの、現実的に障害者を子どもに持つ親にとっては重要な位置と思われていないことがわかった。その分、重要な役割を担っていたのが、障害者を子どもに持つ親の仲間であり、社会との距離を適切に取ろうとする働きを後押ししている。また、障害者を子どもに持つ親の仲間は、親の心理変化に多大な影響を与えており、不安要素を軽減していることもわかった。障害者を子どもに持つ親を支援するという視点に立つ場合、この障害者を子どもに持つ親の仲間の力を見習う必要があり、この力のさらなる分析の上、福祉社会や一般社会がこれを担うことができるのかどうか検討することが今後の課題であろう。

また、本研究の対象者は、成人知的障害者を子どもに持つ親であったが、実際には母親のみであった。母親ということもあり、愛着や母子分離等の課題が出てきた。家族社会が大きな役割を果たしているという本研究の結果から、今後は父親を対象として、同様の調査をした上で比較検討することも重要である。また、きょうだいに焦点を当てた調査を行うことで、家族支援のヒントを得られるかもしれない。

本研究の課題としては、直接支援するための指針を検討してきたものの、社会との関係性というマクロな視点での分析を行ったため、支援の具体性に欠ける点である。ただし、大枠で捉えることができたため、支援の方向性は確立できたのではないかと考える。今後は、この結果をよりミクロな視点で調査し、障害者を子どもに持つ親の支援に結びつけることが求められるであろう。

引用文献

有川宏幸　2002　自閉症児・者をもつ家族の地域支援のあり方　特殊教育学研究，40，429 - 434

American Psychiatric Association　2004　高橋三郎・大野裕・染矢俊幸訳　DSM-Ⅳ - TR 精神疾患の診断・統計マニュアル　医学書院

Bowlby,J. 1969 Attachment and loss: Vol.1; Attachment. Basic Books. 黒田実郎、大羽蕃、岡田洋子、黒田聖一訳 1976 母子関係の理論①愛着行動、岩崎学術出版社

樋口智絵　2006　親からみた経度発達障害児・者の障害理解と自己理解―面接、自由記述アンケートによる質的研究―　大阪教育大学障害児教育研究紀要，29，109-118

蓬郷さなえ・中塚善次郎・藤居真路　1987　発達障害児をもつ母親のストレス要因（Ⅰ）―子どもの年齢、性別、障害種別要因の検討―　鳴門教育大学学校教育センター紀要，1，39-47

蓬郷さなえ・中塚善次郎　1989　発達障害児をもつ母親のストレス要因（Ⅱ）―社会関係認知とストレス―　小児の精神と神経，29（1，2），97-107

石尾絵美　2008　障害の社会モデルの理論と実践　雑誌名不明，37-49

稲浪正充・西信高・小椋たみ子　1980　障害児の母親の心的態度について　特殊教育学研究，18(3)，33 - 41

岩崎久司・海蔵寺陽子　2007　軽度発達障害をもつ親への支援　流通大学論集－人間・社会・自然編－，20（1），61-73

Johnstone,D.　1998　An Introduction to Disability Studies, London, David Fulton Publishers.　障害学入門　福祉・医療現場にかかわる人のために　小川喜道他訳 2008　明石書店

加藤のぞみ　2012　知的障がい児をもつ母親の内的変容―母子関係に着目して―　京都大学大学院教育学研究科紀要，58，327-339

北原佶　1995　発達障害児家族の障害受容　総合リハビリテーション，23，657-663

木下康仁　2007　ライブ講義 M - GTA 実践的質的研究法　修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて

工藤麻由・奥住秀之　2008　障害児をもつ親のストレスに関する文献研究　東京学芸大学紀要　総合教育科学系，59，235 - 241

桑田左絵・神尾陽子　2004　発達障害児をもつ親の障害受容過程についての文献的研究　九州大学心理学研究，5，273-281

文部科学省　養護学校の義務制実施と養護学校の整備
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318339.htm

中田洋二郎　1995　親の障害の認識と受容に関する考察―受容の段階説と慢性的悲嘆　早稲田心理学年報，27，83-92

中田洋二郎　2002　子育てと健康 17　子どもの障害をどう受容するか　家族支援と援助者の役割　大月書店

中田洋二郎　2009　発達障害と家族支援　家族にとっての障害とはなにか　学研

中塚善次郎　1984　障害児をもつ母親のストレスの構造　和歌山大学教育学部紀要　教育科学，33，27 - 40

中塚善次郎　1985　障害児をもつ母親のストレスの構造(Ⅱ)　和歌山大学教育学部紀要　教育科学，34，5‐10
中塚善次郎　1988　障害幼児に対する両親の養育態度因子とその両親間における類似性　教育心理学研究，36 (2)，152-160
南雲直二　1998　障害受容―意味論からの問い―　荘道社
新美明夫・植村勝彦　1980　心身障害幼児をもつ母親のストレスについて―ストレス尺度の構成―　特殊教育学研究，18(2)，18‐33
Olshansky,S. 1962　絶えざる悲しみ－精神薄弱児をもつことへの反応－　松本武竹子訳　1968　家族福祉　家族診断・処遇の論文集　家庭教育社
阪木啓二　2005　知的障碍児･者の母親のストレッサーについての一考察　精華短大紀要，1-8
品川不二郎・品川孝子　1958　田研式親子関係診断テスト手引　日本文化科学社
品川不二郎・品川孝子・森上史郎　1968　田研・両親態度診断検査　明治図書
下田茜　2006　高機能自閉症の子をもつ母親の障害受容過程に関する研究－知的障害を伴う自閉症との比較検討―　川崎医療福祉学会誌，15，321-328
田中小百合・泊裕子　2002　てんかん児をもつ母親の養育態度―発達段階の視点から―　滋賀医科大学看護学ジャーナル，1 (1)，29-37
玉井真理子・小野恵子　1994　発達障害乳幼児の父親における障害受容過程―聞き取り調査 4 事例の検討―　乳幼児医学　心理学研究，3，27-36
得津慎子　2009　知的障害者家族にみる日常生活を維持する力：M-GTA によるプロセス研究　関西福祉科学大学紀要，13，19-35
上田敏　1980　障害の受容―その本質と諸段階について―　総合リハビリテーション，8 (7)，515-521
植村勝彦・新美明夫　1981　心身障害幼児をもつ母親のストレスについて－ストレスの構造－　特殊教育学研究，18 (4)，59-69
渡邉裕子・伊藤良子・栄慧珍　2006　高機能広汎性発達障害の子どもをもつ親の入園・就学前のストレスに関する研究　発達障害研究，28 (1)，72-85
山根隆宏　2009　高機能広汎性発達障害児をもつ親の適応に関する文献的検討　神戸大学大学院人間発達環境学研究科　研究紀要，3 (1)，29-38
山根隆宏　2010　高機能広汎性発達障害児をもつ母親の障害認識の困難さ　神戸大学大学院人間発達環境学研究科　研究紀要，4 (1)，151-159
山本真実・門間晶子・加藤基子　2010　自閉症を主とする広汎性発達障害の子どもをもつ母親の子育てのプロセス　日本看護研究学会雑誌，33 (4)，21-30